

## 執筆者紹介

(執筆順、\*は編者)

\*久塚純一 早稲田大学社会科学総合学術院教授 序章 1

〈この本〉と決めたら、少しずつでもいいから、毎日、毎日、とにかく毎日。そうすると、一週間後、一カ月後、三カ月後、「嫌いな科目」が「気にかかる科目」になって、「癖になる科目」へと変化します。

\*森田慎二郎 東北文化学園大学医療福祉学部教授 序章 2・3, 第2章 1・3, 第3章 1～4・7, 終章 4・5

若いころ社会保険労務士の試験勉強をした。初めは法律用語や条文がとても難しく感じられた。でも一通り体系的に勉強した後で、もう一度全体を復習すると、知識が頭の中に染みわたるようになっていき、過去問もスラスラ解けるようになった。みなさんもこの「法学」の勉強で体験してみてください。

\*長沼建一郎 法政大学社会学部教授 第1章 1～3

法学を習得していると、めめごと・争いごとに結構つかえます。とくに気が弱い人、口下手な人は、ぜひ法学を身につけるといいでしょう。ただし法学は、相手を打ち負かすためではなく、正義の実現のために活用してくださいね。

かながわ 金川めぐみ 和歌山大学経済学部准教授 第1章 4・5

法律学は難しい、勉強するのはやだなあ……と考えていたあなた、この本を読んでみてそのイメージが変わったでしょうか？ 福祉の仕事にも法律はとても身近に必要なものだと思います。面白さを少しでも感じ取っていただけたならば嬉しいです。

こにし ひろ 小西啓文 明治大学法学部准教授 第2章 2

法律を勉強するというと、堅苦しく、杓子定規な条文解釈をイメージするものですが、コラムの具体例を頭に思い描きながら本書を読んでもらえば、そんなイメージは容易に崩れ去るものと思います。好きな音楽でも聴きながらリラックスして読んでみてください。

はる た き び ひこ 春田吉備彦 沖縄大学法経学部教授 第3章 5・6

効率よく受験勉強をするには、負荷なく作業を継続することだとおもいます。あなた自身が「ナチュラル」な状態で作業可能な場所——例えば、喫茶店・電車の中・図書館・自分の部屋——を見つけることは有効だとおもいます。